

工学分野のノーベル賞『チャールズ・スターク・ドレイパー賞』を受賞した 金沢工業大学奥村善久名誉教授を齊藤北陸総合通信局長が表敬訪問

～ NTT ドコモ執行役員廣兼北陸支社長、NTT 西日本森北陸事業本部長とともに奥村名誉教授と歓談しました ～

齊藤一雅北陸総合通信局長は、NTT ドコモ執行役員廣兼実俊北陸支社長、NTT 西日本森英俊北陸事業本部長とともに、平成 25 年 4 月 12 日、日本人として初めて『チャールズ・スターク・ドレイパー賞』を受賞された奥村善久名誉教授を金沢工業大学に訪ね、お祝いを述べました。

『チャールズ・スターク・ドレイパー賞』は、アメリカの民間非営利研究機関「全米技術アカデミー」が毎年実用的な技術の進歩や社会の発展に貢献した研究者に贈っている賞で、奥村名誉教授は「世界初の携帯電話ネットワーク、システム、標準規格に対する先駆的貢献」が認められ、他の 4 人の研究者とともに受賞されました。40 年以上も前に地形条件等により異なる電波の伝わり方を詳細に実測調査し、「奥村カーブ」、「奥村モデル」として体系化、その後、携帯電話の基地局等を効率よく配置する上で欠かせない設計方法として、世界中の通信網構築に活用され、貢献したことが高く評価されたものです。

表敬訪問では、齊藤局長が、「チャールズ・スターク・ドレイパー賞の受賞、誠におめでとうございます。奥村先生の世界的な業績が認められ、電波や通信の仕事に携わる者として、大きな誇りに感じております。2006 年頃に広帯域移動無線アクセスシステム（WiMAX）の地域への導入の仕事に関わったときに、技術基準を策定する総務省の情報通信審議会の資料の中で「奥村モデル」、「奥村・秦式」が引用されているのを目にし、移動通信の世界に素晴らしい先達の日本人がおられることを知っていましたが、その先達の方にお会いする機会を得て、本当に光栄です。」と祝辞を述べました。続いて、NTT ドコモ執行役員廣兼北陸支社長が、「私は NTT の研究所に 4 年半ほど在籍し、移動通信の立ち上げの頃から研究に携わりました。研究所では奥村先生が書かれた論文を読み、実験では、奥村・秦式を使用しておりました。本当に感謝しております。」と、また、NTT 西日本森北陸事業本部長が、「私は有線伝送が専門ですが、先生は“10 年先を見て考えろ”と仰られています、私も先生と同じように 10 年先の夢を追いかけたいと思います。」とお祝いを述べました。

奥村名誉教授からは、当時のことを振り返って、「昭和 40 年に調査員として初めて移動無線のプロジェクトに携わり、自動車電話システムの狭帯域化などに取り組みました。実は、当時、郵政省からの周波数の割り当てが見込めず、400MHz 帯自動車電話の商用化は実現できませんでした。その後、昭和 45 年からは 800MHz 帯大容量広域自動車電話方式の実用化の促進に尽力しました。この 800MHz 帯の開発に対し、一時論文発表を停止されましたが、その後、首を覚悟で発表したのが、まさに受賞理由になっている論文なのです。」と感想を述べられました。

その後、4 月 22 日に KKR ホテル金沢で開催される『チャールズ・スターク・ドレイパー賞』受賞記念特別講演の進め方について打ち合わせを行いました。なお、同特別講演の詳細については、下記の連絡先まで、お問い合わせください。



表敬訪問の冒頭に齊藤局長が挨拶



受賞の感想を述べられる奥村名誉教授



受賞記念特別講演の進め方を説明



授賞式の写真を見せていただき、歓談



奥村名誉教授と記念撮影

連絡先：北陸総合通信局情報通信部電気通信事業課（担当：綿谷、中野）

電話：076-233-4420

e-mail：hokuriku-jigyo_seisaku_atmark_soumu.go.jp